

11・4日比谷野音へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2012年10月15日
№ 61

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

300万学生の未来は 11/4集会にある!!

全学連委員長・斎藤郁真(法政大学)

全国の学友は11・4全国労働者総決起集会に集まろう!

11・4集会に、私たち300万学生の未来がかかっています。「パリバ・ショック」(07年)と「リーマン・ショック」(08年)以来、天文学的規模の財政投入、それに伴う国家破綻、大恐慌は拡大・深化し続けています。大金融機関や大独占資本は責任を取らず、矛盾は労働者民衆への犠牲として押し付けられています。労働条件の劣悪化・非正規職化、社会保障の切り捨て、増税…、これらが世界に拡大しています。

一方で、各国が市場・勢力圏をめぐる争いを強めています。特にアメリカは、「輸出倍增戦略」を貫徹するために「太平洋国家になる」と宣言して「新軍事戦略」とTPPをもって、膨張する中国に対して攻勢をかけています。日米同盟が強化され、米日韓の合同軍事演習が日々「史上初」を更新する規模で行われています。沖縄県民の激しい怒りを踏みにじってオスプレイ配備が強行され、「領土」問題が噴出しています。その情勢に対応して、かつての戦争の歴史を正当化し、翼賛する政治家たちが台頭しようとしています。

3・11と原発事故があった今も、山下俊一・神谷研二を中心とする御用学者たちが福島県民を切り捨て、国家そのものである「原子力ムラ」の利権を守ることに躍起になっています。戦争情勢の中で、この国の支配者たちは「原発は抑止力になる」と核武装の目的を隠そうともしません。



10・19法大包囲デモ

10月19日(金)12:40

法政大学市ヶ谷キャンパス正門前集合

※13時半～デモ出発

※18時～20時、首相官邸前の反原発行動に合流

11・4全国労働者総決起集会

新自由主義と闘う労働組合の全国ネットワークを!

外注化阻止・非正規職撤廃、解雇撤回! 反原発・反失業!

◆11月4日(日)正午～

◆東京・日比谷野外音楽堂にて

【主催】全日本建設運輸連帯労働組合・関西地区生コン支部、全国金属機械労働組合・港合同、国鉄千葉動力車労働組合、国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動 http://www.geocities.jp/nov_rally/

※右写真は、5950人が結集した昨年11月6日の全国労働者総決起集会



私たち青年・学生にとって、希望の見えない社会がつくられようとしています。日本の自殺者は14年間連続で3万人超、非正規雇用は拡大し若者の二人に一人は非正規雇用です。大学では「学費・就活・奨学金」の三重苦が学生を襲い、増え続ける学内規制で反対の声もあげられず、多くの学生が現実を「仕方がないもの」とあきらめさせられています。そういう「教育」を受けた学生を量産し、非正規雇用しか仕事がなくとも、サービス残業をさせられても、文句一つ言わないことが「普通」だという社会がつくられています。

しかし、みなさん！ 暗い時代はもはや終わりです。「命より金儲け」の社会のあり方—新自由主義—は、国鉄分割・民営化(1987年)より本格化しましたが、それは現場から覆されようとしています。国鉄分割・民営化に対してストライキで闘った動労千葉というJ Rの労働組合は、12年にわたって千葉で外注化(非正規職化)を阻止し、労働者の団結した闘いが国策や法律すら超えて私たちの権利と生活を守り抜くことができることを証明しています。この闘いに学び、「闘う労働運動を甦らせよう」という運動が日本中に広がっています。この闘いは世界からも注目され、動労千葉

など三労組が主催する11・4集会には毎年、韓国・民主労総をはじめ、世界から多くの闘う労働組合が参加します。「領土」問題など、資本や国家と闘う労働者には存在しません。

全学連もこの闘いに学び、キャンパスで新自由主義と対決し、学生の可能性と団結に依拠して闘ってきました。法大闘争はその闘いの象徴です。のべ119人の逮捕—33人の起訴を出しながら激突してきた法大闘争は今、新たな世代を先頭にキャンパスを揺り動かし、学生の闘いの結集軸として屹立し、10/19大集会をうち抜こうとしています。

原発、基地、戦争、非正規雇用、御用学者…、あらゆる問題は一体です。「原発の電気が安い」のは被曝労働で使い捨てられる労働者の人生が「安い」からであり、私たちの人生が安く扱われているということです。新自由主義の下で労働運動がつぶされ、闘えない労働組合が「労使協調路線」を掲げて腐敗している現実がこのような状況を生み出しています。11・4集会には、この現実を覆す力があります。

私たち学生の未来は、今の腐った議会や、金儲けにしか興味のない資本家連中ではなく、11月集会にあります。未来をかけて、全国の学友は11・4集会に集まろう！

「ペテン師＝山下俊一を追放するぞ」 ——福大生が福医大に申し入れ！

「事前に結果を決める健康調査など聞いたことがない。福島県民は実験用の動物ではない」「ここまでのペテンをしてもまだ『県民のため』と言うつもりか」「『大学教授』という立場を利用して県民にウソをついているのが許せない」。

福島県と福島県立医科大学が行っている「県民健康管理調査」で、「がん発生と原発事故に因果関係なし」と検討委員の口裏をあわせる「秘密会」が行われていたことに、福大生から激しい怒りの声が上がった。神谷研二追放を闘う広島大生のように、福大生は大学のあり方を問題にしようと、10月12日に福医大に山下・神谷の謝罪と解任を求める『要望書』を提出した。広大生からの抗議メッセージも併せて提出した。どちらも、御用学者に怒る県民と全国学生の思いを伝えようと学生同士で真剣に議論して作成したものだ。



岡山大で御用学者弾劾の申し入れ！

10月10日(水)、岡山大学でI A E A (国際原子力機関)の御用学者を招いて行われた『環境・エネルギーシンポジウム』開催に抗議し、申し入れ行動を行いました。福島原発事故後も原発の必要性が存在している以上、原子力を続けるため放射性廃棄物の処分方法の国民的議論が必要、という趣旨のシンポです。

岡大生の申し入れに主催者は、「学長に申し入れ書を渡すかどうか分からない」とのふざけた対応(一応、シンポジウム終了時に「返事が来るか分からないけど」と言いつつも学長に渡したとのこと)。10月中の書面での返事を求めているので、返事がなければ、また、それを問い詰めるように構えるつもりです。

シンポにも参加。御用学者以外、ほとんど参加者なし。講演したI A E Aの御用学者は、福島はたいしたことないという福

当日朝、福大生と地域の仲間で福医大に行ったが、山下も神谷も出てこなかった。福医大は部屋も用意せず、要望書は学生から見えない外での受け取りとした。とことん県民をなめている。対応した職員は「私は山下先生の言葉を信じており、福島市は安全だと思う」と答えた。福島大生の怒りの追及に、「(『要望書』を)山下先生、神谷先生に渡す」と答えた。

山下や神谷は、県民の健康を語るのではなく、一貫して「安心」を語ってきた。それは、県民の健康被害への不安、避難先での差別・分断への苦悩に向き合おうとするものではない。ましてや、福島と全国を放射能禍にさらした政府と東電に責任追及をまったくしない。「原発事故の影響はほとんどない」と「科学的」に「証明」することで、原発再稼働、新規建設を推進しているのだ。原発推進大学と御用学者の犯罪性はいよいよ明らかになった。すべての原発を今すぐなくすために、学生は団結して大学から御用教授を叩き出そう。この日の行動の意義は大きかった。

夕方の福島駅前での金曜行動で申し入れ行動を報告。御用学者追放のメッセージボードが子ども福島ネットのお母さんたちに喜ばれ、注目も多かった。大学からこの社会を根本的に変革する闘いは始まっている。福島と全国の学生は、10・19法大デモから11・4日比谷へ！ (福島大・古郡)

島軽視の立場から、「福島第一原発事故後も、I A E A加盟国は原発を手放すつもりはない」と明言。また「正義というのは人に説明してそれを受け入れさせる覚悟(押し付ける)をさせるということ」と定義し、原発や放射性廃棄物を押し付けることが彼らの正義だと言い放ちました。さらに、原発事故の最大の焦点の



被曝の人体への影響については、まったく触れないふざけた内容でした。これからもどんどん、岡大の御用学者を暴露していく闘いに入ります！

(工学部4年・M)